

令和3年4月
一橋大学

令和3年度一橋大学私費外国人留学生選抜学力試験

標準的な解答例 【日本語】

I の解答例

1. (1) 脚色 (2) 虚構 (3) 誘惑 (4) 模した (5) 衰退

2. イ

3. A:ウ B:イ C:オ

4. 表裏

5. 主体的かつ能動的に観光地の文化や生活に触れること

6. 解答例

19世紀半ばから労働に対する余暇活動として非日常的なものとされた観光は、20世紀後半から日常生活とつながりをもった場所や文化が対象とされるようになり、次第に日常と観光のあいだの分化が溶解してきている。

7. 解答例

- 例)・人とは違う体験にこそ時間やお金を費やす価値があると考えること
- ・どのような体験に価値を感じるかは人によって異なっていること

8. 解答例

たとえば、大阪の人はみんなおもしろいというように、外部から見えている印象を自分たちの特徴としてとらえるようになっていくこと。地域のアイデンティティの確立は、誇りや愛着を強化するという意味で悪いものではないが、地域といっても全住民が等質ではないため、その印象がいつも当てはまるわけではなく、過度なステレオタイプ化を招く弊害もあるのではないかと考える。(174字)

(意味をとらえられている+例が挙げられる+意見が述べられる)－日本語表現

Ⅱの解答例

問1 (1)くだ (2)あやま (3) かか (4) そんなちょう (5) お

問2 AIは与えられた教師データから出発して学習するため、AIが学習する教師データにバイアスがかかっていた場合、AIはそのバイアスを学習してしまうから(75字)

問3 ウ

問4 AIにエントリーシートの評価をさせる企業が、過去の採用において特定の学歴を持つ個人のエントリーシートに高い評価を与えていた場合、AIはその事実を過去のデータから学習してしまうから(88字)

問5 エ

問6 たとえ、かりに

問7 AIによる判断は既存のデータや現実の社会のあり方の反映になってしまい、そこにバイアスがあるかどうかをAIは判断できないため、バイアスを排除するには、そうした現実とは独立にバイアスの有無を判断できる人間による判断がAIによる判断とは別に必要であるから(124字)